

## 平成 18 年度当初予算 重点プログラム別概要

### 元気 3：基礎・基本の学力定着プログラム

( 主担当部：教育委員会 )

- ( 1 ) 30 人学級等少人数教育推進事業
- ( 2 ) 信頼される教職員人材育成事業
- ( 3 ) 自ら創る学校支援事業

< プログラムの事業費 >

( 単位：千円 )

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	3 か年計
当初計画	1,037,106	1,089,000	1,073,000	3,199,000 程度
見直し後	1,019,194	1,330,595	1,362,937	3,712,726

注：「見直し後」の 16 年度は決算額、17 年度は予算現額、18 年度は当初予算額

< 事業目標 >

目標項目		平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
(1) 児童生徒の授業の理解度	目標値	82%	83%	85%
	実績値	83%	84%	
(2) 学校で能力向上に取り組む教職員の割合	目標値	60%	65%	70%
	実績値	64%	65%	
(3) 学校経営品質導入学校数 ( 累計 )	目標値	100 校	240 校	400 校
	実績値	139 校	437 校	

注：17 年度実績値は 1 月末現在で把握できる見込み値

< 進捗状況 ( 現状と課題 ) >

児童生徒の学力や学習意欲の低下が懸念されています。

このため、30 人学級等による少人数教育を推進するなど、一人ひとりに応じたきめ細かい教育を充実させてきましたが、今後も、児童生徒の学習意欲を高め、基礎・基本の学力の定着につなげていく必要があります。

教職員研修については、OJT ( 学校内研修 ) を基本に、実践的な指導力の向上に取り組んできましたが、引き続き研修の充実を図っていく必要があります。

また、学校経営品質については、本年度、県立学校では取組の定着を、小中学校では実施校の拡大を図っていますが、今後は、教職員への普及・浸透をさらに進める必要があります。

#### <平成 18 年度の取組方向>

引き続き、少人数教育について、弾力的な運用と体制の充実を図ることにより、一層推進するとともに、児童生徒の学習状況の分析結果に基づく指導方法の工夫改善などに取り組む市町を支援するなど、児童生徒の学習意欲を高める取組を進め、基礎・基本の学力の定着を図っていきます。

また、研修の充実により、教職員の実践的な指導力などの向上を図るほか、三重県型「学校経営品質」の定着と拡充を図り、児童生徒や保護者、地域から信頼される学校づくりを一層推進します。

#### <主な事業>

##### (一部新) 少人数教育推進事業

【18年度当初予算額 1,231,393千円】(事業(1)の一部)

小学校において、各学校の実情に応じ、少人数授業などの拡大を図るため、教員の配置を拡充し、きめ細かな少人数教育を一層推進します。なお、小学校1、2年生については、30人を基準とした学級編制(ただし、下限25人)を継続して実施します。

また、中学校1年生を対象としている35人を基準とした学級編制(ただし、下限25人)については、各学校の実情に応じて、2年生あるいは3年生にも振り替えて実施できるよう、弾力化を図ります。

##### 学力フォローアップ推進事業

【18年度当初予算額 17,625千円】(事業(1)の一部)

よりわかりやすい授業を行うため、児童生徒の学習状況を調査し、その結果を分析することにより指導方法の工夫改善に取り組む市町を支援します。

##### OJT推進事業【18年度当初予算額 13,523千円】(事業(2)の一部)

教職員が、OJT(学校内研修)を通して日々の業務の中で互いに学び合いながら、計画的な能力の向上に取り組めます。

##### ITを活用した教職員研修(ネットDE研修)事業

【18年度当初予算額 32,772千円】(事業(2)の一部)

教職員が必要に応じて、いつでも、どこでも、何度でも受講可能な、ITを活用した研修を推進し、各教科等の指導力の向上を図ります。

##### 自ら創る学校支援事業【18年度当初予算額 26,945千円】

公立の小中学校、県立学校が児童生徒や保護者、地域から信頼される活力ある学校づくりを進めるため、三重県型「学校経営品質」の定着と拡充を図り、学校自ら継続的な改善に取り組めます。